

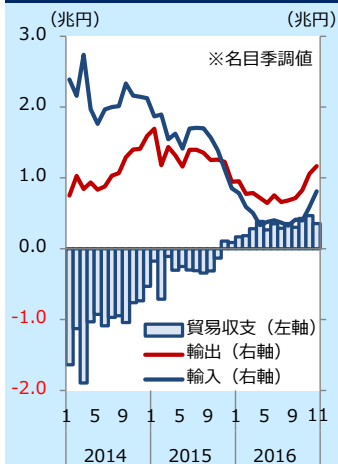
## 日本：貿易統計（2016年12月）

—アジア向けの増加から、輸出金額は15ヶ月ぶりのプラス—

## MRI Daily Economic Points

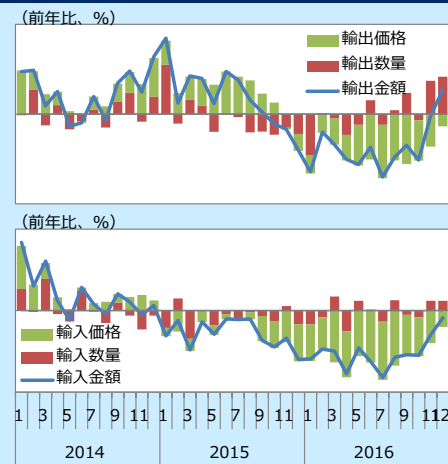
January 25, 2017

## 貿易収支



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

## 輸出入金額の寄与分解



## 評価ポイント

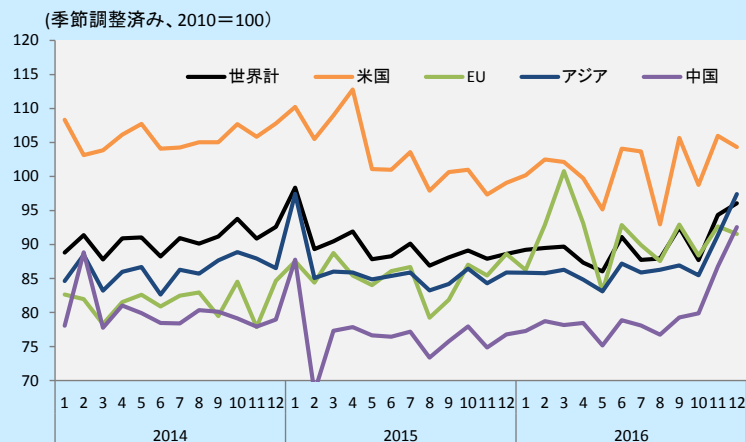
## 16年12月の結果

- 16年12月の貿易統計は、輸出金額が前年比+5.4%と15ヶ月ぶりに増加。一方、輸入金額は、同▲2.6%と24ヶ月連続で減少。貿易収支（季節調整値）は、+3,567億円と14ヶ月連続の黒字となった。
- 16年暦年では、4兆741億円の貿易黒字となった。輸出金額（前年比▲7.4%）、輸入金額（同▲15.9%）ともに減少したが、原油安による輸入金額の減少幅が上回り、東日本大震災前の2010年以来、6年ぶりの黒字となった。
- 12月の輸出金額の内訳をみると、輸出価格は前年比▲2.7%と14ヶ月連続で下落した一方、輸出数量が同+8.4%と2ヶ月連続で大きなプラスとなり、輸出金額全体でも増加。
- 地域別の輸出数量（当社にて季節調整）をみると、欧米向けは今月はマイナスとなったものの、アジア向けが大きく増加している。米国向け（前月比▲1.6%）は、輸送用機器は増加したものの、鉄鋼や非鉄金属が減少。EU向け（同▲1.2%）は、輸送用機器や電気機器が弱めの推移となった。アジア、及び中国向け（同+6.6%、同+6.7%）は、スマートフォン向け部品とみられる電気機器輸出の伸びが引き続き堅調なほか、一般機械や輸送用機器など幅広い財で増加し、2ヶ月連続で高い伸びとなった。
- 輸入金額は減少が続いている。12月の輸入数量は、前年比+3.6%の上昇となったものの、前年の水準に比べ原油安が続いていることから、輸入価格が同▲6.0%と下落した。

## 基調判断と今後の流れ

- 足元の輸出は、世界的なITサイクルの改善や中国の景気刺激策などを受けて、持ち直している。
- 先行きの輸出は、基本的には、米国経済の堅調持続やアジア地域の持ち直しに伴い、緩やかな回復が続くと見込む。ただし、米国の保護主義的な政策転換が明確化しつつある中で、世界経済に対する悪影響が懸念される。世界貿易量が停滞するような状況となった場合には、日本の輸出に対しても相応に下押し圧力となるだろう。

## 地域別輸出数量（季節調整値）



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成 ※三菱総合研究所による季節調整値。